

「楼英学園物語」(ゲーミング・シミュレーション型教材)に対する 教員評価-1

● 評価者：阪本康之教諭（筑波大学附属坂戸高等学校）

● 教材全体について

- ・生徒の多くがスマホを持ち、SNS を安易に使う現在、また逆に大人は経験しなかった（教育されなかった）“つながり”について、このような擬似的な体験ができ、ネットいじめやいじめの問題への関心・理解を高められることは、とても有益なことだと考える
- ・今の「情報」では、ネットの向こう側に多くの人がいることのモラル・マナーを教えているが、生徒は実感していないと思われるので、この教材は仮想ではあるが現実でも同じことが起こりえることを実感して欲しい
- ・今だけでなく、そして友だちだけでなく、ネットで公開された場合には情報の回収は不可能であり、想像もしないほど多くの人に、そして未来に渡って影響があることを気づかせてくれる

● 教材の利点について

- ・ちょっとした日常的なことから事件（いじめ）が起きていくという現実にも則したストーリーであること
- ・堅苦しくなく今の生徒に馴染みやすい内容
- ・SNS の画面も動かすことができ、過去の発言や、友達の発言も見られること
- ・加害者でなくても放っておくと悪い方向へ展開すること
- ・事態を改善するためにはどうしたらいいか考え疑似体験できること
- ・いろいろと気づきにくい項目が用意されていること（対象が全体公開、写真のアップ、不適切な投稿内容）

● 教材の課題について

- ・子どもたちの利用状況や技術の進展により、教材中の SNS の部分がいつまで使用できるか
- ・教材中で、描かれている場面が限定的である部分がある（いじめやネットへの情報漏えいの後に、学校にたくさんのクレームの電話が来る場面があるが、学校だけの問題ではなく、さまざまな背景がある）
- ・いろいろと疑似体験することができるのがゲームのよいところなので、いろいろな選択が簡単に繰り返しできるようになるとよい

- ・生徒が教材を体験している間に（登場人物の会話や BGM 等の）音が出るのでそれへの対策

- この教材を授業で使用する場合の今後の展開についてのご意見

- ・教員も経験したことがない（教わっていない）ことなので、扱ったあとの対応の仕方をさらに検討していく必要がある

- ・生徒の気づきに期待したいところであるが、教員がどこまで説明するのかについてもさらに検討が必要である

- この教材を授業外で使用する場合（生徒の自主学習、保護者への啓発活動など）の今後の展開についてのご意見

- ・生徒にやらせ放しでいい内容ではないと思われるため、どのように事後指導していくかをさらに検討していく必要がある

- ・保護者には、自分の子どもの様子を観察してほしい。保護者に対して、子どもに安易にスマホを所持させることのリスクに気づくための働きかけが必要である